



図書館だより

目次

大学の歴史的記憶を担う図書館	——白杵 陽	1
協定大学図書館訪問記 その2		
お茶の水女子大学附属図書館		
新しい道がひらける図書館	——山本 杏子	2
西生田図書館「泉ラーニング・スペース」のご案内		
	——山村 いづみ	2
ミニ講座@泉ラーニング・スペース（目白）報告		
	——坂本 清恵・後藤 敏行	3
図書館からのお知らせ		4



西生田成瀬講堂の成瀬先生胸像

大学の歴史的記憶を担う図書館

白杵 陽

大学図書館は今、転換期を迎えている。資料を収集・整理・保管し、サービスを提供する旧来型の施設としてのみならず、情報リテラシー教育の役割をも担うことが期待されるようになったからである。女子大学でも Vision120 に基づいて新図書館が設計されつつある。そんな時期に図書館長に就任することになった。いろいろな意味で重大な責務を負っていると痛感している次第である。

ところで、図書館とは何なのかという問いは中東現代史研究を志してからずっと考え続けてきた。というのも、中東地域では図書館は歴史的記憶の集積の場として政治性を帯びているからだ。私自身が研究のために中東に初めて資料収集に出かけたのは35年以上前のことになる。当時、イギリス委任統治期におけるパレスチナ・アラブ民族運動に関する修士論文を準備していた。夏休みの40日間ほどを利用してレバノンの首都ベイルートに出かけた。このテーマに関するアラビア語史資料を系統的に収集・所蔵していたのはPLO（パレスチナ解放機構）研究センターだったからである。研究センターはベイルートの繁華街ハムラー通りのすぐ近くにあった。レバノンは1975年以来、内戦状態にあり、建物もかなり破壊されていた。この首都自体も政治的に東西に分断されていた。

滞在期間中、研究センターの図書室に通うのが日課となった。当然ながら、関係する史資料を請求する際にお世話になる司書と親しくなった。名前はジョルジュといった。パレスチナ出身者かと思ったら、ベイルート生まれの若いギリシア正教徒だった。年齢も近いということもあり、よく話すようになった。彼の自宅にも招待されたのでお返しに日本料理店に誘った。ベイルートにはTokyoという日本料理のレストランが一軒だけ残っていた。内戦前ベイルートは「中東のパリ」と呼ばれ、貿易・金融・メディア関係の日本企業の駐在員が多数居住していたからである。

ベイルートでの資料収集の成果はそれなりだった。ところが、私のレバノン訪問から約2年後の1982年6月、イスラエル軍が突如レバノンを侵攻した。その際、PLO研究センターは破壊された。所蔵資料は没収され、イスラエルに持ち去られた。それから数年後、私はエルサレム・ヘブライ大学に留学した。そのとき、イスラエル国立図書館において、没収されたパレスチナ関係の史資料と「再会」することになった。戦争という非常時には敵方の歴史的記憶の集積の場である図書館・資料館などがまず攻撃対象になる。その国民・民族が継承してきた歴史的記憶を抹消するためである。だからこそ、改めて図書館こそが大学の歴史的記憶を担っている場だと感じざるをえないのである。

（図書館長・史学科教授）

協定大学図書館訪問記 その2 お茶の水女子大学附属図書館

新しい道がひらける図書館

山本 杏子

お茶の水女子大学附属図書館は、護国寺駅から緑の多い坂を上った場所にあり、本学目白キャンパスから意外に近い場所にあります。

2階が主な所蔵場所になっており、本学の図書館との大きな違いは、日本語の本と外国語の本とが分かれていないことです。同じジャンルであれば、英語、中国語、ドイツ語など、書かれた言語に関わりなく本棚に並んでいます。例えばアメリカの文化についての本を探すとき、日本の著者による本だけでなく、近くにある英語の本も一緒に閲覧することができます。哲学思想では原著も並べて置いてあり、参照しながら読むということもできるでしょう。

また、特色ごとに資料がまとめて置いてある箇所があり、わかりやすく、探しやすくなっています。例えば、アルファベット本という各国の文字を取り扱った本や、絵本のコーナーがあります。芸術系の学科があるためか、美術関連の本が多い印象もあります。展覧会のカタログ専用の本棚があり、美術館や博物館などでの様々な展示品を調べることができます。教育関連の蔵書も豊富です。ジェンダー研究センターの本棚には、女性に関する和洋の書籍が多種多様にあり、成瀬先生の著作集など古いものも揃っています。1階はキャリアを考える場所や季節に関連した展示をする場所になっており、図書館と人のありかたを考える機会にもなるかもしれません。

お茶の水女子大学の図書館は、本学の学生、とくに教育、文化、ジェンダーや女性学に関心のある学生にとっては、新しい資料への道がひらける場所となるのではないのでしょうか。本学からは資料閲覧と複写のみ可能で、訪問には学生証が必要ですが、所蔵を確認して行ってみる価値は十二分にあると思います。目白キャンパスから歩いて行ける距離にあるので、日々の学習や調査研究に何かいつもと違ったものを読みたい、必要になったといった場合は、ぜひ訪れてみると良いと思います。
(史学科 4年次学生)



西生田図書館「泉ラーニング・スペース」のご案内

本学学生保護者の会である泉会よりご支援いただき、この夏、西生田図書館2階に新しくラーニング・スペースが設置されます。

＜泉ラーニング・スペースについて＞

ラーニング・スペースは学生の学修支援環境を整え、自学自習の支援をするためのスペースです。可動式机・イスを備え、自由にグループ学修などができます。ラーニング・スペースには超短焦点インタラクティブ機能内蔵プロジェクター、携帯型ロールスクリーン（超短焦点用）、グループ研究室（1室）には電子黒板等、新たな機器類が導入される予定です。ノートパソコンも館内利用として貸出いたします。また、西生田図書館各階にJASMINE-Wireless ポイントが設置され、インターネット環境も充実いたします。学生の皆さんはグループワーク、授業等のプレゼンテーションの練習等、積極的に利用してみてください。

*ラーニング・サポーターによる学修支援

泉ラーニング・スペースで授業期間、学科・専攻より推薦を受けた本学学生（学部上級生、大学院生）がラーニング・サポーターとして学修相談を受け付けます。ラーニング・サポーターの専門分野など時間割はスペース内の掲示にてお知らせします。

*支援の内容：学修相談

- ・文献・情報収集の方法（参考文献の選び方等）
 - ・授業内で提出するレポートの書き方
 - ・学習の進め方、研究テーマの相談
 - ・資料の集め方
 - ・図書館資料の検索方法
 - ・Word, Excel 等、基礎的な操作方法
- （館員・西生田図書館 山村いづみ）

ミニ講座@泉ラーニング・スペース（目白）報告

「日本語日本文学文献検索と日本語語彙検索」（12月14日実施）

坂本清恵先生（日本文学科）

目白図書館4階に泉会の支援によって泉ラーニング・スペースが開設され、その施設活用の一環として「日本語日本文学文献検索と日本語語彙検索」のお話をする機会を得た。レポートや卒業論文を執筆するにあたり、主要な先行研究を的確に集める方法を学生に周知させることを目的に、新たに設置された電子黒板を利用して、解説を行った。昼休みにもかかわらず、30人を超える学生が熱心に聴いてくれた。この企画は、確かな効果があったものと思う。

日本女子大学図書館のホームページ上には、情報検索サイトをまとめて掲載した、たいへん活用しやすい「オンラインデータベース」が用意されている。日本語・日本文学関係の先行研究を探す場合には、その中の「CiNii」（国立情報学研究所提供）、「日本語研究・日本語教育文献データベース」（国立国語研究所提供）、「国文学論文目録データベース」（国文学研究資料館提供）の3つのサイトを必ず閲覧し、複数のキーワード検索を行う必要がある。三者とも国立機関でありながら、それぞれ情報を収集する媒体、データベース化の速度、キーワードの付与方法が異なるため、同じキーワードで検索を掛けても、ヒットする論文が異なるからである。さらに、前二者のリンク先からは、一般公開している論文をPDFファイルで取得できる。しかし、これらのデータベースにリンクを張らずに、論文発行機関が独自にPDFで公開している場合もあるので、必ずGoogleなどのサーチエンジンも併用して検索を行う必要があることを、実際にデモンストレーションを行いつつ説明した。

日本語の使用例を検索する方法として、コーパスを使用した検索と、取得したテキストファイルから検索する方法について、国立国語研究所のホームページにあるデータベース・データ集を使い簡単に紹介した。要望と機会があれば、さらに詳細な講習も行ってみた。

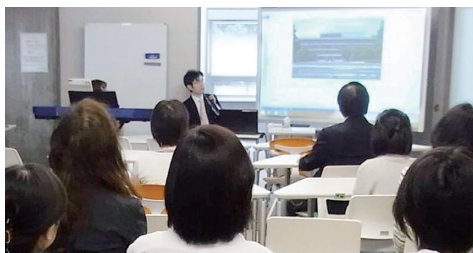


「図書館×音楽＝♪」（3月24日実施）

後藤敏行先生（家政経済学科）

3月24日、泉ラーニング・スペースにて、ミニ講座「図書館×音楽＝♪」を行いました。ソプラノ歌手の尾畑里美先生をゲストにお招きしました。音楽に関する情報探索について後藤が解説したのち、実演をいただきました。尾畑先生を「情報検索システム」に見立て、会場内から観客に「風」、「希望」、「平和」など、その場で思いついた言葉を述べていただき、それに応じて、尾畑先生が即興で実演をいたしました。

オープン企画という位置づけでしたので「景気づけ」と、当該スペースではコンサートなどの多様な試みができるのでは（実験的試み）ということで、今回の企画になりました。会場内、大いに盛り上がりました。尾畑先生、機材をお貸しくださった学科様、ご来場くださった皆様、関係各位に厚く御礼申し上げます。



図書館からのお知らせ

図書館の動きを皆様にご理解いただき、より一層ご利用いただけるよう、2015年4月～2016年3月の取り組みを、下記のとおりご紹介します。今後、さらなるサービス向上に取り組んでまいります。最新情報は図書館ホームページをご覧ください。

日本女子大学図書館サービス向上への取り組み (2015年4月～2016年3月)

<2015年度>

- 学生対象の JASMINE-Wireless 運用開始:
目白4階閲覧室・グループ研究室,
西生田2階閲覧室(4月)
- CiNii Articles と本学学術情報リポジトリ
の連携リンク開始(4月)
- 館内スタンプラリー2015実施(目白, 4月)
- 現図書館設立時のパンフレットを図書館ホ
ームページに掲載(4月)
- 「学生が読みたい本」実施(5月・10月)
- 学術交流企画「大学図書館の Vision-
「自学自動」と学修支援」開催(日本文学
科との共催)(5月)
- 玄関ホール貴重書特別展示:
ケルムスコット・プレス版「チョーサー作
品集」, 「源氏物語」(目白, 5月 「源氏物
語」のみ8月)
- 4階に複写機設置(5階2台を4階1台,
5階1台に変更)(目白, 6月)
- 「教員が学生に薦める本」新規募集・掲示
開始(7月)
- 玄関ホール展示:
「広岡浅子と日本女子大学」(9月～3月)
- 泉ラーニング・スペース開所式, 運用開始
(目白, 11月)
- 各学科(教員1名)より専門分野の図書館
所蔵資料への意見聴取(11月)
- 図書館システム「iLiswave-J V2」バージ
ョンアップ(11月) OPACの操作性向上等
- 泉ラーニング・スペースミニ講座(目白, 12月・3月)

2015年度実施した利用者向け講習会

大学スケジュールとして実施

- ・1年次オリエンテーション<目白・西生田>
スライド上映: 4/3 目白・西生田
図書館案内: 4/3 西生田(自由参加形式171名
参加)

教員からの依頼等により授業時間内に実施

- <目白> 計26回414名参加
児童1回10名 食物2回11名 英文20回277名
史学3回116名 教養実践演習1回8名
- <西生田> 計22回389名参加
現代社会4回81名 社会福祉8回127名
教育5回87名 心理3回34名 文化2回60名

図書館主催で実施

- <目白>
・新大学院生オリエンテーション 4/9
家政学, 文学, 理学 15名参加
・資料の探し方講習会(4月～7月, 9月～1月)
基礎, 基礎+応用の2コース 31回114名参加

泉ラーニング・スペースミニ講座

- <目白>
「日本語日本文学文献探索と日本語彙検索」
(12/14, 29名)
「図書館×音楽=♪」(3/24, 32名)

今後も実施しますので、
ふるってご参加ください。

編集後記 白杵新図書館長による巻頭言が始まった。編集委員も新たなメンバーを迎え、新体制での出発となる。前号に引き続き、学生の取材による協定大学図書館訪問記(お茶の水女子大学)を掲載した。目白に引き続き、今号発行と前後して西生田にも泉会ご支援によるラーニング・スペースが設置される。目白でのミニ講座の様子を、講師の先生方にご報告いただいた。今後西生田でも活発な利用が期待される。巻頭写真は西生田の新緑を映す成瀬先生胸像。

平成29年度図書館だより編集委員: 浜口都紀, 水嶋寿恵, 鈴木学

(浜口)